

経営会議の内容

件 名	コミュニティバス運行地域の拡大（案）について
所 管 部	街づくり計画部
日時・場所	平成24年11月20日（火）13:00～13:50 政策会議室
出 席 者	市長、副市長、教育長、病院長、市長室長、政策部長、総務部長、市民経済部長、健康福祉部長、こども部長、環境農政部長、文化スポーツ部長、街づくり計画部長、都市施設部長、病院事務局長、教育部長、消防長、街づくり総務課長
提 出 理 由	本市の交通利便性をさらに向上させるためのコミュニティバス運行地域の拡大（案）について、了承を得るため
会議経過	【主な意見等】 - 新たな運行地域での導入を予定しているワゴン車は、小型バスに比べ最大乗車人数が少なく効率性が低いと思われる。また床が高く、高齢者や障がい者の方々などは乗降がしにくいと思うがどのように考えているのか。 （所管部）ワゴン車導入の理由としては、効率性よりも、小型バスが入れない幅員の狭い道路を走ることができるコンパクト性をポイントとしている。また、床が高く幾分乗降しづらいこともあろうかとは思いますが、「のりあい」のワゴン車運行で得た経験からは、そういった点についてはドライバーのサービスや周囲の方々のサポートがあれば乗り越えられると考えている。地域の方々の協力をお願いしていきたい。 - 常に固定のルートを周回するだけではなく、イベントがある際にはルート上になくてもその会場を経由するなどの工夫をしてみると、地域の方々により親しみを持ってもらえるのではないかと。 15～20分の運行間隔を予定しているが、そのペースでの運行には車両は何台必要となるのか。 （所管部）1ルートあたり4台で、新たに4ルート運行するので、まず16台必要である。さらに予備として3台必要と考えているので、合計19台必要である。 - 利便性の高さを追求していくためには、ルートに加え、停留所の設置箇所の設定も重要である。十分、研究・検討しながら進めるべきである。 4つの新規ルートについて、どれが先行2ルート、後続2ルートなのか決定しているか。 （所管部）検討中である。 - 重要な課題として収支バランスがある。実験運行を行うにあたり、事前に収支のシミュレーションは行うのか。 （所管部）便数、乗降客数、運行間隔など、様々なパターンを想定しながら、シミュレーションを行う。 - 採算性が低くなってしまうルートもあるのではないかとと思うが、どのように考えているのか。 （所管部）個々のルートごとに判断するのではなく、全ルートにおける収支バランスを重視していきたいと考えている。 - 超高齢社会を迎えるにあたり、高齢者が心身の健康を促進し、相互の交流を図っていくためには、家の外に出やすい環境を作っていかなければならない。交通利便性のテーマのみならず、地域に活力を生み出していくためにも、今後かけがえのない施策である。
会議結果	案のとおり、進めていく。